

☆私の意見

夢のある地下鉄 絵になる町づくり

安好 匠

△神戸市交通局々長▽



神戸市初の地下鉄がいよいよ三月一日にスタートします。名谷・新長田間の西神線五・七キロです。

車輛については車体はグリーン、のツートンカラーでシートもグリーン。これは長年神戸市民に親しまれた市電のグリーンを復活したものです。冷暖房も完備されています。技術面ではATC（自動列車制御装置）、CTC

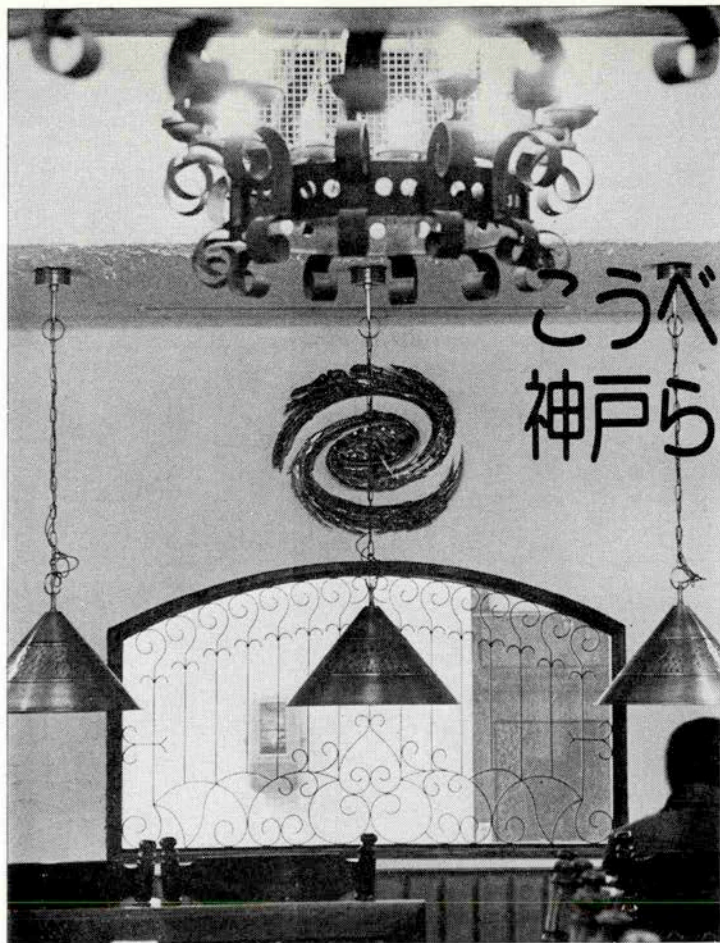
（列車集中制御装置）を装備し、全国初の試みとして連続勾配を下る列車がブレーキ時に発生する電力を再生して駅の照明などに供給する省エネルギー化が行われています。それと四つの駅の個性化。駅は市民の出逢いの場であり、コミュニティ広場、公共広場ですからそれにふさわしいイメージが必要です。名谷駅は春に花の咲く木で法面をおおう「春の駅」、妙法寺駅は山小屋風で、秋に紅葉する木で法面を色どる「秋の駅」、板宿駅はプラットホームの壁を板の目模様にした「板の駅」、そして新長田駅は浜側に出来る新長田ビルの壁面と合わせて駅ビルにも鳩をデザインした「鳩の駅」となっています。

都市交通機関を装置として考えるで大動脈は鉄道で大量・長距離輸送、中動脈はモノレールや新交通システムによる中量・中距離輸送、小動脈はバスになるのですがこれらが有機的に連携することが必要です。将来、大都市では大動脈は地下鉄、中動脈は中空、小動脈は地上というようになると思います。

私は常々「絵になる町づくり」ということを提唱しております。絵に画きたくなるような、今風にいえば、写真に撮りたくなるような町角がいたるところにあることです。都市交通についても常にこうした考えをもっており、都市景観を考慮した、乗って楽しく、見て美しいものであるべきだと思います。

今年、神戸市交通局は創立六十周年を迎えます。今こそ、公共の交通機関を企業的視点から都市的視点へと移し、都市交通問題を都市問題としてとらえる新しい視点、新しい価値観の必要なきだと思えます。

（談）



こうべに
神戸らしい店を……

コーヒーハウス「ハットドッグ」
(生田区中山手通1丁目)

信頼される

**KOBE
NIKKEN**

店舗装備のプロフェッショナル

(株) 神戸日建

神戸市葺合区御幸通3丁目2-20
PHONE 078(251) 3525(代)
東京営業所 03(393) 1577

随 想



元・山川 勝彦

暖かい ノルウェーの旅

樋口 勝子

八宣 教師



「ノルウェーって寒いんでしょ
う」と帰ってきてからよく聞かれ
る。そう、確かに零下18度ぐら
いは度々経験したし、南の方に位置
する首都オスロでも、今年は十月
の中旬に初雪が降った。しかし冬
の寒さが苦になったことはない。
屋内の暖房設備は完備しているし
暖かいコートを着て（年配の人に

とっては毛皮のコートはごくあた
り前）、暖かいブーツをはいて、
防寒用の帽子に厚手の手袋をすれ
ば万事OK、むしろ日本の冬の方
が寒いと感じるくらい。

しかし夏の寒さ（？）には時折閉
口させられた。むこうでの暮らし
三年半、ノルウェー伝道会とい
うキリスト教の国体の招きでいき、
学んだり、働いたり生活だった
が、旅行が多く、最北の白夜が見
えるあたりへも何度か行った。特
に今年の夏、六月半ばかり一ヶ月
最北で働いたが、厚手のセーター
をはなせなかったし、屋内では暖
房を使っていた。だから時折太陽
が出、暖かい日があるとそれこそ
大人も子供も日光浴に一生けんめ
い。陽焼けがカッコよいなんて生
やさしいものではなくむしろ人間

としての義務と考えるくらい。
白夜の印象？ 北極圏に入った
あたりで経験する白夜はロマンテ
ィックで美しいけれど、もつとず
つと北までいくと真夜中にも太陽
が真上でさんさんと輝き、二十四
時間、昼間という感じ。その反
面、冬は一日中まっ暗。日の出と
共に起き、日の入りと共に休むな
んてゼイタクはそこでは許されな
い。

気候ばかりか、生活の知恵、ま
た楽しみ方も日本とはかなり違っ
ている。何しろ日本とはほぼ同面積
の国でありながら、人口わずか四
百万足らず。大阪の人口を全国に
ばらまいたら出来上る国であるか
ら、地方へいけば隣りの家まで車
でいかねばならない。人口の多い
国で育った私たちにはうらやまし
いと思うことが沢山あるけれど、
その反対のことも沢山。例えば税
金と印刷物の高いこと。また都会
の雰囲気の好きな人、元町やセン
ター街やさんちかをぶらつくのが
好きだなんていう人には向かない
国。四時から五時には店は皆閉まっ
てしまふし、第一ぶらついて楽し
い通りなんて全然ない。そのかわ
りほとんどの家庭はゆったりとし
た部屋が気持ちよくかざりつけて
あり、お客様を迎えてコーヒート
手製のケーキで楽しむということ
は日常のこと。お客様を泊めるこ

にも慣れている。三年半の半分
 以上は旅に暮らしたけれど、ホテ
 ルに泊ったことはない。どこへ行
 っても帰る時にはゲストブックに
 何か書いてくださいと頼まれる。

お客様を迎え、もてなすこと
 によって自分たちが自分たちの家庭
 が祝福をうけるといふ思いは深く
 いきわたっている。「受けるより
 与えることは幸いである」という
 聖書の言葉が生活の中に生きてい
 る清潔な素朴な国である。

焼き物と

思ひ出

吉田 泰巳

△嵯峨御流華道総司所理事V



いつの頃からか、旅に出ると町
 の骨董屋をのぞくのが私の趣味に
 なった。骨董といっても私の興味
 を引くものは焼き物、しかも私の
 懐具合にあう安物に限られている

結婚してから三年目に入り、長
 男も昨年九月に生まれ母と夫婦、
 子供の四人で、泣いたり笑ったり
 まあ世間なみに無事年月を過ごし
 ているが、いま頃になって思ひ出
 すのが、女房に最初にふくれられ

た時のこと。

私は元来野次馬根性旺盛で、な
 んでも見なければ損やらなければ
 損と、本当に困った性格である。

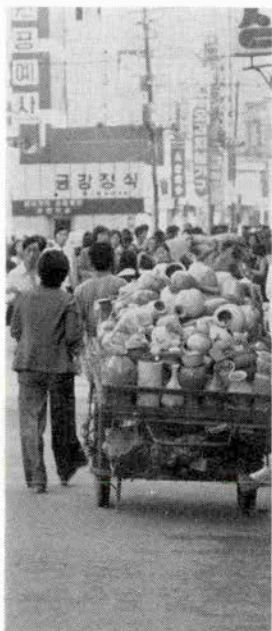
今から考えるとたいへん可哀想な
 ことをしたと反省もしているが、
 九州に新婚旅行にいった時、ホテ
 ルに到着が夜の九時、朝の出発が
 七時、強行軍の連続ですがその辛
 抱強い女房も四日目にはふくれつ
 らになり、女のあつかいはたいへ
 んむづかしいということをつくづ
 く思い知らされた。その時女房の
 反対を押し切ったのぞいた北九州
 市で手に入れた絵唐津の壺は、手
 にとるたびにその時のことを思い
 出させる私の大好きなつぼの一つ
 である。

ともかく一つひとつのものに思
 い出がある。韓国旅行をした時に
 手にいれた「茶入」、「香合」にも
 それぞれの思ひ出がこもる。今か
 ら約五年前、韓国最大の観光地慶
 州を訪れた時、骨董屋の前を通り
 かかると、店の中から声がかかっ
 た。「お客さん 夏茶わんあるよ。
 三島あるよ」茶道の世界におい
 て、韓国より渡った物は古いもの

新しいものを問わず唐物として非
 常に珍重している。しかしそれは
 韓国では別の用途として使われて
 いた物を日本人がその美しさを発
 見し、それを茶の道具として使っ
 ているのである。しかしこの国で

「夏茶わん」、「三島」等、そんな
 呼び声を聞くとは想像もしていな
 かったのたいへん驚いた。しか
 もその店では日本の茶道に関係の
 あるものには非常に高価な値段が
 つけられていて、なかなか掘り出
 したのを見つけたのはむづかしい
 と思われた。ふと陳列のかたすみ
 を見ると、私の目を引くものが二
 つあり、主人にこれはなにかと聞
 くと、一つは女の人の化粧する
 ときにつかうおしろいとき、もう一
 つはようじ入れであるとの説明が
 かえてきた。これをお茶の道具
 に使えるということと主人は知ら
 ないのか、たいへん安い値段がつ
 いていた。こうして手に入れたの
 が現在愛用している香合と茶入で
 ある。

旅の思ひ出はさまざまだが、そ
 の思ひ出をアルバムに写真を一枚
 一枚はるように、焼き物を集める



韓国のつば売り荷車
 (筆者撮影)

ようになってから旅の楽しさが倍増するようになったのも確かである。

ともかく焼き物には土の匂いがする。私はいけばなにたずさわることから、植物とはきつてもきれいな関係にあり、その植物を育てるのが土である。そしてまた日本の文化の基盤をなすものも土であるといっても過言ではなからう。

すべての人々の生活に、土は密着している。土くささのなくなりつつある都会生活の中で、土くささを持つ焼き物を集め、その一つひとつの思い出にひそかな誇りを感じる今日この頃である。

「私の本」が

できました

小山乃里子

△アナウンサーV

いつか読んで、ボーボワールの本の中に、こんな一節があった。「この世の中には、一生かかっても読み切れぬ程の本があるというのに、何故又一冊、その数の中に加えねばならないのだろう」

ちょうどその頃、何年に一度か私を襲って来る、暗闇の中で、めったやたらと出口を捜してもがいているような、深山に入りこみ、呼べど呼べど、返って来るのはコダマだけだという時に感じる、恐

怖に近い孤独感とも言えるような、そんな仕事への虚しさに私はとらわれていた。

電波を相手の商売も、長く続ければ、そんな精神状態を上手く切り抜けるすべなど、いつのまにか身に付けるものだけれど、それでも時々、喋り散らされ、どこかへ消えてしまった言の葉に、たまらない、いとおしさを感じる事もある。女に出来る事といったら、子供を作る事位だ、と暴言した男がいたけれど、私にはそれすらもないのだ。なんでもいい、私が造り上げました、といえるものが、無性に欲しかった。

詩集でも、エッセイでも、たとえそれぞれがどんな出来上りであろうと、本を一冊出してみよう、と思ったのは、そんな頃だった。けれど、私の乏しい本棚の本ですら、全部読んではいないのに、やつぱりそれは、大それた考えだよ、と心の中でもう一人の私が笑う。電波を相手の商売が虚しいなんて、思い上りもはなはだし、と彼女はののしる。エッセイで



「結婚するバカしないバカ」

装幀 鴨居羊子

も、なんて簡単に言っただけはよくはないね。あれは、最高の文章力を要求されるものなんだから。詩だって、学生時代にちよこちよこつと書いていただけじゃないの。よしな、よしな、ともう一人の私は、追求の手をゆるめようとはしない。十年早いよ、とまで言われて、私は決心をかなりにぶらせてしまった。三年程前の事である。

それがどこでどうなったやら、「私の本」が出来上ってしまったのだ。昨年の、ほぼ半分を、原稿を書く為についやした。と書くといかにもかっこいいけれど、実際に始めてみると、原稿用紙のまず目を、一字一字埋めていく作業の、なんとしんどい、時間のかかるものであるか。一カ月に、一気に百枚書いたと思うと、次の月には、わずかに二十枚、その次の月は十枚、予定枚数までは、実に遠い道のりで、途中何度も嫌になって息抜きに麻雀をしたり、お酒を飲んだり、アメリカに行ったり。

嗚呼!! それでも、ここに、こんな立派な本が(なに、立派なのは表紙だけ、だって)出来たのであります。内容は、読んでのお楽しみ。エッセイでもなく、小説でもなく、結婚に、まだ夢を持っているのやら、あきらめているのやら、とにかく「私の本」である事には、変りはないのです。

□ある集いその足あと

具象人間「五人展」

佐藤 廉 △元町画廊▽

「具象人間」五人展も昨年暮第七回展を盛大裡に終了した。今年で八年目に入る。

本展も神戸市を中心に関西の美術ファンにとって、その年の美術の成果と、次なる新しい年の動向を知見するに最適なパロメーターになった。この五人展が企画展としての内容と、作家たちの異った画質と、それぞれの個性を持っているからである。

年々回を重ねるに従い、多くの観賞者に大変喜ばれ、また、美術ファンにとっては神戸年末情景の一つの歳時記として定着しつつあ



オープニング風景いつも賑わう「五人展」ならではの

る。それだけにこの作家たちと育ち流動して、少しでも前進して行かねばならない本展の企画性は、その内容において重大な意義と責任をもっている。

よく「具象人間」の言葉の意味を問われるがここでその意味をいうことにしよう。そもそもこの五人展は、経済高度成長が叫ばれ、物質文明の謳歌された八年前に始まった。美術品がより商品化し、質の問題より見た目に写實的に美しくさえあればよい表面的な図解説明の如き絵画が量産され、投機的な色着き証券の代用化に等しい絵画の流動が行われ、本質的な作家、真の美術ファンにとっては悪夢の如き「美術ブーム」「当来の萌し」の出かかった時分である。

私たち（五作家とも）は常に寄つては、これらの問題を取り上げ議論反省の日々を送っていた。元町画廊新築開店（創立五十周年）の記念企画展としてすでに二十年近く前に当展が企画した「兵庫県選抜作家十人展」（具象作家五名・現代作家五名）7/7/7展に移行）より具象作家だけ切り離し、その混乱した美術界にあって作家としての本質を忘れず、作家としての人間性をより一層追求してそれを自己の絵画創作に表現し、お互に切磋琢磨して行こうという意図を私が提案し、五作家の賛同を

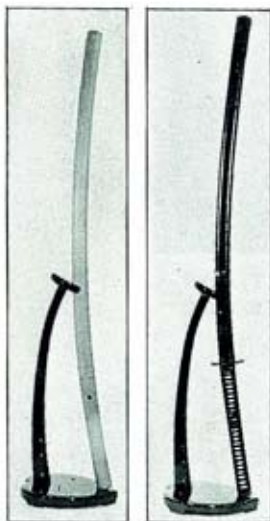
得て企画された展覧会である。そのときにタイトルが各人から出されたが、中西勝君が「五人とも具象作家であり、本質的に自己の人間性を熱烈に追求する作家であるから、その意味と言葉を合せて「具象人間」にしよう」と提言、それに全員意気投合して決められたのが「具象人間」五人展（中西勝・鴨居玲・河野通紀・西村功・松本宏のいわれである。第一回展覧会の「ことば」を陳舜臣先生にお願い申し上げ、毎回名文による励ましを受け、私共にとりどれほど力づけになったかわからない。一同に代り厚く謝意を申し上げたい。今やこれら五作家とも日本の美術界にとって重要な位置をしめる中堅作家として、大いに期待される作家になったことは、その画歴が示すとおりであるが、しかし芸術の道は厳しく、これからが本番であって自己完成に向けて益々研磨に務めねばならない。

その意義からも本展の存続は将来に向ってより一層重要になって来るであろう。全員が健康に留意し忍耐強く努力を重ね、お互に励まし合い、その年々の自己の成果をこの「具象人間」五人展に於て、熱烈な火花を散らせるよう努力してほしい。多くの美術ファンと共に大いに期待し見守っていきたいと思う。

美術 古刀 美術 骨董 剣書

刀拵つき

特別貴重刀剣認定書付
無銘(文殊包次)
長さ 三尺一寸
四、三〇〇、〇〇〇円



鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一ヵ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀古骨

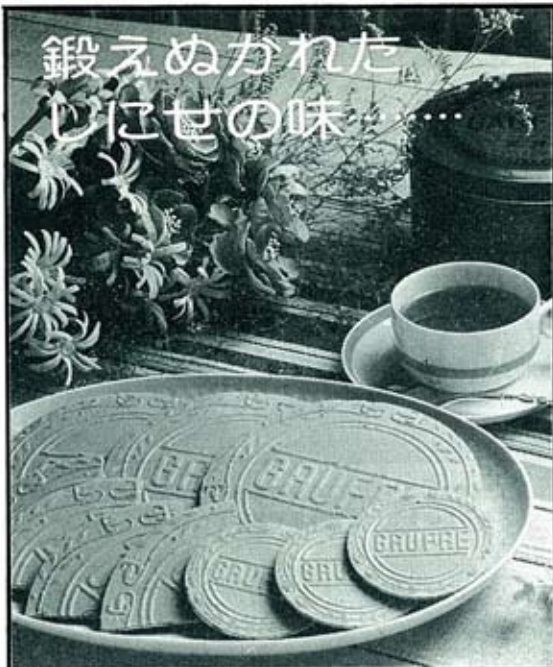
美術

元町美術

〒650

TEL078-351-0081

鍛えぬかれた
心に世の味……



ゴーフル



ほろほろと軽い2枚の洋風
せんべいに、バニラ、スト
ロベリー、チョコレートの
3色のクリームをはさんだ
爽やかな風味——
お子さまからお年寄りまで
巾広く親しまれている
風月堂の代表銘菓です。



神戸風月堂

本社 神戸元町3丁目 ☎(078)391-2412

□私の交友録〈2〉

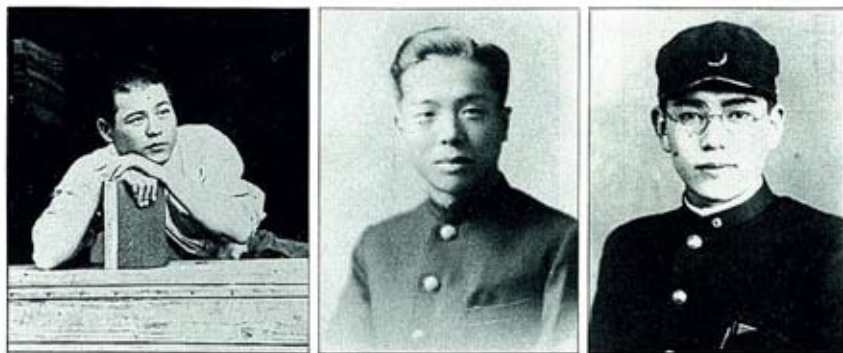
活動狂

原

清

〈朝日放送社長〉

金ボタン時代の活動狂



クリヤノフ・コジロフスキーの筆名をもつ栗林紅路さん(左、昭和4年 篠川連隊にて)と、初めて会った時お互い紅顔少年で驚きあった宮森喜久二さん(中)と筆者(右)(ともに昭和2年頃)

流行歌の文句じやないが、活動写真が好きで好きで好きで好きで……という活動狂の青少年たちを生んだ神戸の源泉地は湊川新開地である。

もともと、この新開地は熊野から和田岬方面へ流れていた湊川を、西南へ付け替えて今の湊川とし、旧湊川の廃川地を湊川新開地と命名、ここを福原遊廓につづく歓楽街にしたものだといわれている。

大正時代、すでに市電の電車道から浜側には洋画封切館のキネマ倶楽部、朝日館、邦画の錦座、菊水館、二葉館、芝居の相生座、色物席の千代通座などがならび、市電から山側には聚楽館、松竹劇場、後には松竹座も加わった。相生座では新派悲劇や生きた大蛇を使う恐怖劇、それに当時流行の連鎖劇がかかり、舞台とスクリーンの連鎖演出が大好評で大衆を沸かせていた。

また相生座やキネマ倶楽部の近くには、当節はやりの勤工場式商店街があつて、大衆買物客で大賑わい、電停福原口に近いところにあつた労資クラブという一風変わった名前の洋食堂は洋食一皿十五銭均一で大繁昌だった。映画を観ての帰りの活動狂たちの食欲を満たすには格好の場所、調理場から流れ出すラードの油煙と人いきれがムンムンする中で、映画議論をよく闘わせたものである。

湊川新開地は当時、東京の浅草六区、大阪の道頓堀と競う映画・演劇街で、私たち活動狂はいささか気どつて「まい・おーるど・しんかいち」と愛称した。ついでのことながら最近でもさんちかタウン、さんブラザ、トア・ロード、フラワ・ロード、そして「The Kosecco」などと同様、少々キザな呼び方が定着するのは、ミナト神戸ならではの市民性といつていいかも知れない。

さて、実は赤ん坊時代から幼稚園時代まで、私はこの湊川新開地の西隣りに当る兵庫の佐比江町に住んでいた。この町は、その当時ちょっとした商店街だった。私の家は茶屋、隣りは地玉子屋、向いは医院、すじ向いは

瀬戸具屋、かまぼこ屋などがならんでいた。

夕方になると、ガス燈屋が小さな脚立をかついで走って来て、軒先にあるガスの門燈に灯をつけて回ったところである。向いのお医者さんが仲々のハイカラさんで、夏の夜など近所の子供たちを集め、当時物珍しかった極彩色の幻燈を見せてくれた。幻燈、今でいうスライド映写でそのタネ板（画像原板）は五センチ角ぐらいのガラス板に描かれた絵に色絵具で幼稚な着色をしただけのものだが、これがレンズで拡大されて白い襖に映し出されると異様な迫力があつた。時あたかも日露戦争に大勝した軍国熱のほとばしりがまださめやらぬころだけに「二〇三高地の激戦」など勇ましい場面が出ると、子供心にも興奮を感じ、思わず拍手喝采したものである。

幼稚園から帰ると祖母が私の手をひいて近くの湊川新開地筋へ散歩に連れていってくれた。軒をならべた活動写真館は、いずれも大きなペンキの絵看板と旗のぼりで人眼をひき、夜ともなれば各館とも不夜城のような電飾の中に看板のペンキ絵が生きもののように浮び出ている入口に近づくくと、アーク燈の映写機がジージーと音をたてながら悠つくり回転しているのが見え、その青白い光がたまらなく美しく見えた。このときの活動写真館の絵看板や夏の夜に観た極彩色幻燈画の強烈な印象が潜在意識となつて後年の私を活動狂に追い込んだに違いない、と私は今も信じている。

もっとも、私が活動狂になったのは大正十年ごろだからそのころは住居は東神戸に移っていた。そして、そこで一人の活動狂に出合つたことが、私の活動狂への道を更に決定的にしたのである。

その人の名は宮森喜久二。かねてから映画同人雑誌や映画館のプログラム、キネマ旬報の寄稿欄などお互いに名前だけは知り合っていたが会うのは初めての二人。双方ともひとかどの活動狂を自認していただけに、顔を合せてみてびっくりした。お互いにまだ中学一年生だったからである。彼は関西学院中学部、私は甲陽中学の

まだ脚にゲートルを巻いて通学していたころである。

彼、宮森は映画雑誌の論文で見る限り、どうしても三十才以上の青年とふんでいた私の前に、いきなり丸顔の紅顔少年が現われ「ボク、宮森です」と名乗られたのだから驚いたのも当然である。「おれだつて驚いたよ」と、その後毎日新聞記者となり北海道総局長、パレスサイド・ビル代表など歴任して今は悠々自適の宮森はつい最近語ってくれた。

同じ活動狂学生でも村上久雄（本名忠久）は、私たちより数年上級、関西学院英文科の学生だった。お得意の英文学に物言わせて、映画の英語字幕の原語ニュアンスまで解説されては如何せん、彼の映画批評や映画論が勝利を占めることが多かった。彼は、今もなお関西アカデミー協会長老格として活躍している。

栗林紅路（本名幸二郎）酒も好きだが議論好きで、もうひとつのペンネームはクリヤノフ・コジロフスキーと名付けていたくらいだから左翼ばりの映画理論も鋭かった。

彼は徴兵検査で甲種合格、私たち活動狂一同の盛大な見送りを受けて篠山連隊に入営したが、その翌年秋のある早朝、ひよっこり私の家に訪ねてきた。

見れば、まんじゅ笠に袈裟衣といういでたちである。なんだかソワソワしているのので聞きたしたら、実はその前日、軍旗祭の仮装行列の折、そのまま脱走してきたのだという。そして仮装行列の衣裳での脱走はドイツ映画の筋書き通りやつて成功したんだ、活動狂ならではの、と大得意なのである。

まことに芝居気たつぷり、稚氣愛すべき友だが、といって、そのまま脱走兵の彼をかくまえば大変なことになる。結局、彼に朝食をとらせ、おにぎり弁当を持たせて別れたのだが、その彼支那事変、世界大戦、敗戦……と動乱の嵐の中を彼はどう潜り抜けてくれただろうか。

その後まったく巡り逢う機会のないまま今日に至っている。

□神戸女学院と神戸△1▽

ガールズ・スクール

女学校の夜明け

高道 基 △神戸女学院大学教授▽

え・伊藤 慶之助

神戸女学院では、五月二十二日を「創立者記念日」と呼んでいる。今年は雨天で中止されたが、例年この日は課業を休み、新入学生たちは貸切りバスを連ねて再度山修法ヶ原に眠る創立者タルカットの墓地を訪れる。ことにもつつじの花の美しい季節である。墓前で小さな礼拝を守り、諏訪山をへて帰路につくのだが、新入生たちはこの日を境にしてはじめて「女学院生」としての落ちつきを示すものであるらしい。式後あらためて墓前に近づき、水をかけ花を横たえてじっと瞑目している学生の姿を見る時がある。創ったものがあり、創られてゆくものがある——当り前のことのようにだが、そのことにあらためて感懐を覚えるのもこの日の松声の下である。

帰路のバスは女学院発祥の地山本通りを過ぎるが、もちろん当時を偲ぶよすがはない。明治八年の十月、タルカット、ダッドレーの二女史と三十四名の学生により「神戸ホーム」と名付けられて開校された時、あたりは梅林と水田に囲まれた閑静な一画だったという。沖にうかぶ真帆片帆の影がさながらに手にとるように数えられた、とここ

を訪れた一人の詩人は書いている。

しかし当時の世情を考えるならば、我々はほんやり詩情にひたってばかりはいられないようだ。明治初年、イギリス水兵と岡山藩兵との衝突（神戸事件）の記憶がまだ生々しく、その後も住民と外人とのトラブルは頻発して県令の頭を悩ませていた。それはあながちに住民の排外感情からばかり出たものとは言えない。酩酊した外人水兵や不徳な商人たちによってひきおこされた事件も多かったのである。すでに横浜を中心に日本伝道の方策をたてていた外人宣教師たちにとって、神戸の外人モラルの低さはまるで「ソドムとゴモラ」のように思われたという。

「米国伝道会社」の神戸開教の決定には右のような事情も伏在していた。明治三年三月、最初のプロテスタント系宣教師、D・C・グリーンが横浜より神戸に移り、居留地の外人のための伝道を開始した。「神戸ステーション」と呼ばれたこの拠点に、ギューリック、デイビス、つづいてベリーが到着してグリーンらの活動を助けた。

デイビスはことにエピソードに充ちた人物であ



神戸女学院の創立者
ダッドレー女史(上)と
タルカッタ女史



ちの間に異論があったという。二人ともいかにも柔和に見えた。神戸からの報告は禁教下のきびしい条件に加えて、グリーンの日本語教師市川栄之助の投獄、獄死をつたえている。この女性に苛烈な試練の日が耐えられるだろうか――。しかしそんな危惧を二人の熱情ははね返した。

明治六年三月、その日までお互いに未知であった二人はサン・フランシスコを出航、二十六日の航海をへて神戸に到着した。共に本国において教師の経験をつみ、同じような伝道の心に溢れていた。しかしひそかな不安もあったに違いない。その彼女たちの目にうつった神戸の風景はマイルドであり、彼女らを好奇の目で迎える日本の少女たちは清潔で可愛かった。「少女たちの多くは、路上で見かける時、大変魅力的です」とタルカッタはほととしたように本国に書き送っている。

両女史の到着を誰よりも喜んだのは九鬼隆義であったという。この開明的な旧藩主は、三田藩の子女の教育を二人に托した。花隈村にはじめ置かれた英語、唱歌の教授所は明治七年北長狭通の白洲退蔵方に移され、これも狹隘となるに及んで独立の校舎建築のことが議にのぼった。二女史を送った米国婦人伝道会が拠金し、九鬼ら日本人有志が援助して木造二階建ての西洋館が諏訪山の緑を背景に誕生し、女学院の歴史はここから始まる。

タルカッタは帯を太鼓に結んだ和装の少女たちに、まず「足を内輪にして歩かず、目はまっすぐ相手の目を見るように」と教えたという。伏目にするのが女性の美德と考えられた当時に、昂然と頭を上げて歩く生徒たちの姿は、神戸の人々を驚かせたに違いない。

る。南北戦争のさい北軍大佐として勇戦中、重傷を負い、その志を海外伝道に向けたが日本語の修得にはことに難渋したらしい。一日「ニク」を注文して「ネコ」が連れてこられた時には戦慄したと書いている。剛毅な性格の持ち主で、馬にのって六甲を越え有馬に遊ぶうち旧三田藩主九鬼隆義夫妻の知遇をうけた。この両者の交情が神戸女学院を生む一つの機縁となる。デイビスはのち、新島襄を助けて同志社の創業を助けるが、早くより教育に望みを托していたらしい。未だ禁教下の明治五年、当時の宇治野村に英語学校を創設、自らその校務を掌理した。新知識を求める青年たちで学校が次第に活況を示しはじめると共に、この事業に注目した米国伝道会は新たに二人の婦人宣教師の派遣を決定した。ミス・エライザ・タルカッタとミス・ジュリア・ダッドレーである。

二人の独身女性の選定にあたっては選考委員た

り女あり。

内藤 国雄

〈将棋九段〉

「プロは体力、注意力、集中力が必要。だから、セックスでは女がプロなんです。男は注意力散漫、持久力なしですからね」

石坂 春生

〈洋画家〉

「僕は酒も飲まんし、歌も歌わんし、なんでもどこにおるのか分らんのですよ。ほんまに、分らんですなあ……」



石坂 春生さん



内藤 国雄さん

★酒を飲んだらエロ歌をうたう

内藤 歌うときに飲むのは十回に一回位ですね。一杯飲んで歌えば調子がいいというけど、歌わないかんからというので酒飲んだら酔い方が違うんですね。飲んだらいい声が出るというたって飲んで楽しくなって自然に歌うのじゃなく、歌うために飲むと酔い方が具合悪いですよ。自分だけ酔っていると、なんぼ調子がいいたっておかしいですね。聴いている側にも飲んで貰わないかん。

松本 僕は普通の音楽会だったら絶対飲みませんね、一週間位は。だけど飲んで歌うのはものすごい好きですよ。結局それは相手も調子を取っていかないとあかんのです。結局、ただね、飲んで歌ったらくる日もものすごい疲れます。僕ね、これは酒が悪いんかなと色々考えたんですけど、酒やなしに酒を飲むときに煙草を吸う、これが悪いんですね。たとえばウィスキーならウィスキーだけを飲んで歌うのなら大丈夫なんですけどね。チャンボンすとか、煙草を吸うとか、それからその中の空気が悪いんですね。だけど自分でもびっくりする位いい歌が歌えるときがありますわ。お酒を飲んで歌うと声が出ると自分だけがそう思っているのかなと思たら、そやないね。飲んでいるときはやっぱりいい声が出ているわ。シビレながら歌うから。ある程度適量ですけどね。ジャズの人や麻薬打ちながらやったりいい演奏が出来るとか、ああいう要素がやっぱりある程度音楽にあると思いますね。

石坂 感情が高ぶるのがいいのじゃないですか？

松本 ワアッと乗れるからね。普通、冷静に歌っているら色んなことを考えるからね。

近衛 サミー・デイビス・ジュニアが必ず飲んで歌うでしょう。あれと同じですね。私は飲んだら、まあ、雰囲気や歌うというところですね。何でも歌いますよ。もちろん「おゆき」も知ってますよ。(笑)

内藤 宝塚は歌がうまくないといけないんでしょう？
近衛 ええ、何もかも全部です。



近衛 真理さん



松本 幸三さん

●座談会

酒あり歌あ

松本 幸三

〈声楽家〉

「女でなくなった女とか、やっぱり年増がいいですねえ……。いわば板金加工みたいな、こうやって……」

近衛 真理

〈テレビタレント〉

「宝塚では男性との接触がたとえ親でも禁じられていましたので二十歳頃までの私は、男には見向きもしなかったんですよ」

内藤 まあ、容姿が第一だけれども（笑）歌と踊りが基本になるわけでしょう。踊りで鍛えると足首は細いけど太ももは太くなるんですか？

松本 一ぺん見せて貰わなアカン。

石阪 ハ、ハ、ハ、……。

近衛 そんな、悪いわ。（笑）オ、ホ、ホ……。

松本 ドーンと上へ乗られたからね。（注、劇団神戸のミュージカル「紫式部なんか怖くない」でのこと。念のため）

内藤 それでか……。？

松本 宝塚には独特の発声がありますね。みんなが同じよう。あれ、なんで似て来るのかなと思いますね。真理ちゃんも割りとおーソドックスですね。

近衛 シャンソン、クラシック、ジャズ、と全部やるんです。

内藤 演歌はやらないのですか？

近衛 やらないです。ただ、民謡はやります。演歌だけないんです。結局、声から来るあれだと思っんです。

松本 コブシとか？

近衛 ええ。

石阪 あれは訓練したらかなり演歌になって行くものなんですか？

内藤 なって行くでしょう。

近衛 発声法でそうなりますね。

石阪 ああ、そうですか。そういう心構えとか、血みたいなどろっとしたものがあるでしょう。ああいうものがなかったら演歌にならんのかなと僕は思ったんですが内藤 演歌とか民謡というのは日本人のものだから。

石阪 放ったつたつて出て来るんですか、訓練すれば。

内藤 出るんでしょう。

近衛 持つて生まれた声の質もありますし、きつと。

松本 僕らが演歌を歌えばやはり変な感じですね。日本人でありながら演歌を歌えないというのはおかしい話だからお酒飲みながら、よく、お前は歌うたいだから歌

え歌え、といわれるんですが、そんなとき一番困るんですね。その場のムードから離れてしまうんですね。全然シラけてしまう。伴奏なかったら歌いにくいし。西洋音楽は伴奏と歌で一つの音楽になっているからね。だから酒飲んで歌えいわれたらエロ歌を歌うことにしているんです。(笑)

内藤 僕はやっぱり真理ちゃんの足を見せて貰いたいというのと演歌を聴きたいな。

近衛 イヤア、そんなこと。悪いわあ。(と嬉しそう)

松本 綺麗な足ですよ。悪しからずいうて。(笑) 太いように細いね。鍛えられた足やから。

内藤 細いというのは上の方だけどころかは見てないのでしょう？

松本 いや、上も見ました。タイツで、パンツと、このへんまで全部見ましたから。

内藤 活字にするときはタイツなしにしたい下さい。

近衛 (爆笑) すごい、わるい……。

★好色な目つきでチリ箱を見る?!

近衛 内藤さんはどうして歌を始められたんですか。こうやってはる(と、将棋の駒をつまむ格好をして)のが……私、不思議で仕方ないんですけど。

内藤 みんな歌は好きでしょう。将棋は十歳からやけど歌は五歳から歌ってましてね。僕の五歳のときというのは戦争たけなわでして、防空壕のなかでいつも歌ってたんです。まだ、恐怖心がないからね。母親がおると恐くないでしょう。そこで歌うとエコーがきいてうまく聞こえるんですよ。ズーッと好きなんです。

松本 ものすごい美声ですね。テノールでしょう。

内藤 でも酒と煙草が多いから段々と声が低くなるような気がしてね……。

松本 僕は高い声を出して、このへんへ(と額のあたり押えて)ポーンと来ると何ともいえない快感を感じますね。

内藤 へえ、セックスで快感を感じるとこのへんへ(とこれも額を押えて)ポーンと来るんですね。

松本 いやいや(笑)、高い声を出したときに何か恍惚とした気持ちになるんです。大体テノールは最後が一番高い音で終るんですが、そのときに何ともいえない気持ちになるんです。

近衛 歌を始められて心が広くなるというか、気持ちが違うでしょうね。

石阪 将棋も冴えますか？

内藤 将棋の成績が悪いと歌がマイナスだというけど歌がマイナスじゃない、スケジュールが悪いんだというんです。スケジュールがきついと歌であらうが、釣りであらうが、小説に凝ろうが何に凝ろうがダメですね。僕の場合は歌がものすごく好きだから強行スケジュールでやっているんですが、将棋ほど個人プレーではないんですね。一人で将棋の駒を動かすことを二十年間やって来たのが、それが今は自分が将棋の駒になっている。将棋を始めてズーッと人と力を合わせてやることがないんです。負けたら自分の責任、勝ったら自分がいいだけで、十何時間、黙って盤に向ってやっているでしょう。歌というのは正反対ですね。みんなと力を合わせたたり、大勢の人の前に出たり。今まで経験がないだけに嬉しいですね。それに僕の場合、将棋があるから、いつでも歌をやめられるし、あとでいい思い出になるからということをやっているんです。三橋美智也さんとテレビに出だし、三橋さんに民謡名誉五段を貰ったり、楽しかったですよ。

松本 将棋があつて、楽しみながら歌えるというのは最高だと思えますね。僕みたいに歌を専門にやるとそんなに楽しいもんじやないですよ。

内藤 将棋をやったらどうですか。(笑)
松本 将棋で売り出そ。(笑) たえば、ホールで燕尾服を着てリサイタルをやっているのすごくしんどいわけですわ。だけどね、飲みに行つて歌つてくれいわれて、マイク持ってみんなが知っている歌を歌ったとき本

当に歌っているなあ……と感じたんですね。ああ、これが歌やなって……。だから、色んなポピュラーな歌を歌うようにしたんですね。

石阪 それに抵抗ある人もいるでしょうね。しかし、今までのアカデミシャンと違う考え方になってええと思うね。

松本 段々これからは音楽の方も変わって来ると思いますがね。大きなホールに集めてリサイタルやるとかそんなんじゃないにサロンのなモードでワインでも飲みながら歌を聴いて貰うとかいう風になって来ると思えますね。

内藤 歌をぶっ続けてやったのは六時間位ですね。はしごをして最初の二、三軒は歌わなくて、途中、十時位から歌い出して、店が看板になって、知り合いのマンションに行つて午前四時まで。酒の記録は夏に撮ったお酒のコマーシャル。あれで二升飲みましたね。ちようど、一升ビンが二本出たんです。三林子さんが一合五勺位飲みました。終つてから、もう一軒案内せえいって、そこで二、三本倒していますからね。正味二升ですね。普通の店の徳利だと二十七、八本になりますね。

もう一本コマーシャルに出ているんですが、あれで、内藤さんはどうも色っぽい、ドンファンのような目つきをするといわれるんです。おかしいな、僕は目つきが悪くないし、なんでやといったら、ローラ・ポーとやっていて、ローラさん、どうもどうもというんですが、そのローラさんを見る目つきが好色だというわけですね。ところがあれは合成フィルムでローラ・ポーと会ってないんです。知らんのですよ。撮影現場にはそれらしい女性はおらんのです。ローラさんおらへんやないか、本番になったら来るんか、いうたら、いや、今日は来ません、そんなら、どこを見るんやいうたら、そこにチリ箱があるからそこを見といてくれいわれて、チリ箱みて、やあローラさんいうて、色っぽいわけがない。(爆笑) お酒のコマーシャルの方は本ものですよ。こうやって僕は肩たたかれとるもの。それで家内が機嫌悪いんです。あの

人は慣れ慣れしいいうて。(笑)

近衛 私はお酒は何でもたいていいただく方ですけど。宝塚にいますと段々飲むようになるね。入ったら歓迎会とかいわれて、みんなで旅行へ行つて上級生からあんたも飲みなさいとつがれて、もうこんなになって、それで飲むようになります。

★内藤は額を押さえて……生んでもいいです

内藤 僕は気が強くてひかえ目という女性が好きやね。おゆきは、少しおくれて、歩く癖、それを叱って、抱きよせたという日蔭の女でしょ。ものすごい大人しい女性ですが自分が表へ出たらいかんいうのでグツと抑える。芯が強いんだけど抑えるという女性はいいですなあ。松本 僕はやっぱり不倫の恋やね。(出たツとの声あり)一生結ばれない人がええねえ……。

内藤 それは戸籍上結ばれなくて、実質は結ばれて。松本 それはもう結ばれすぎて……。 (笑) それで、ズツと結婚にあこがれているが、日蔭の身で辛抱する。だからグチをこぼす女性いうのも好きやね。完全に男のエゴですわ。

内藤 グチはこぼしても家庭をこわしてもろては困るわけね。(笑)

松本 だけど女性から見たら家庭を大事にしている、かつそういうバイタリティーがあるという男性にあこがれるのと違うかな。

石阪 おこられるで、そんなこといよったら。(笑) 松本 それで遊びじゃないよ。お互いに真剣に愛し合っている。

近衛 (しみじみと) いいですねえ……。

松本 そんな夢や。へ、へ、へ……。仲々現実を厳し

いけれど。近衛 そうでもなさそ……。先生は。先生はやさしいから……。

松本 僕はね、おゆきさんというのを知ってるんですね。

僕はそこへしよっちゅう飲みに行つてたの。その人は僕が好きで、僕もその人が好きやった。先生の歌が流行り出して、その人、ものすごくよくなつたんや。歌のおゆきに近づきよるわけや。(笑) ああいう名前を使えば、おゆきとかゆき子とかいう名前の女性はみんな夢があるんですよ。みんな自分がモデルになっているのかなという気持ちに段々なつて来るんやね。おゆきばっかり集つて「おゆきクラブ」いうのが出来るんと違う。(笑)

内藤 「紅白歌合戦に出場させる会」のときに子供を抱いた女性がおつたらしいですね。僕がエレベーター乗るときその人が走つて来たのでサインしたらいいんです。パーティーには出ておらんかったんですよ。そんなこと忘れていたんですが、あとで、将棋の後援会のおばあちゃんがいいにくそうに、おゆきさんのモデルはどないなつとるんですかと聞くので、いや、別にないですよ、といったら、僕がああいう詞をつくつたんかというわけですね。いや、そうじゃないですよというたら、実はね、あそこに子供さんかかえた奥さんがおつたと。おたくさんどうしたんですか、今日は内藤さんのパーティーに来られたんですかいいうたら、いや、私は出ません、私がおゆきなんです……いうてね……。子供をかかえているから、そのおばあさんはつきり僕が生まれてやね、その人が日蔭の身でジツと耐えとると。(笑) それで僕がエレベーター乗つたらビュツと走つて来て、僕がサインしたでしょ。あつ、やつぱり、あれ……つて噂しとつたというんですよ。そんな人が出て来るんですよ。(笑) ときどき……。(笑)

ある雑誌で対談をやつたんですよ。それが女の話専門のものすごいやわらかい雑誌なんです。その対談のなかで相手が「内藤さん、『おゆき』って歌が流行っていますが、現在、そういう女性がおるんですか」そしたら、内藤、無言でうなづくとつとるわけですね。こんな話は実際になかつたわけです。(笑) 「もし彼女が子供生むいうたら、どうしますか」というんですよ。僕は、

子供を生んで怖いと思うのなら初めてからやめとけいったんですよ。相手があなたの子供を欲しいというのは本当に惚れとる証拠だから生んでも構わない。それがいいなら最初からやめとくことだね。その通り書きやいいわけですね。ところが、内藤は額を押さえて考え込んだつて。(笑) そして「……生んでも構いません」つてね。

(笑) テポテポ使うたりするから、すごい時間があるわけですよ。その雑誌、家へ送つて来たものだから、家内、機嫌が悪うてね。(笑) 往生したよ。(笑)

石阪 活字はかなわんねえ。

松本 いや、今日も活字ですよ。(笑)

内藤 今日のは大丈夫やね。(笑) 生んでも構わんいうたのは事実なんです。前後がうまくつくてあつて、考え込んで、生んでもエエですなんて、そりや、おかしいですよ。(笑) そんな記事が出たから僕は「紅白」を落とされたんじゃないかと思うんですよ。(一同爆笑)

★女がいなけりや歌わない

内藤 僕はプロは力やと思う。将棋の場合も十何時間盤を前にして座つて、持久力、集中力いうか、まず力でしよう。歌でも声がええとか何とかよりも体力がないとプロがつとまらないですよ。集中力と持久力……。だからセックスでは女性がプロである。男性に比べてはるかに持久力と集中力においてすぐれている。男性は集中力散漫だし、持久力はないし、そして、強そうなことばかりいうし。アマチュアな証拠です。女性は強そうな話をしないですよ。

松本 機能が違いますからね、やつぱり。(笑)

内藤 だから酒とセックスについていうと、あの人は酒が強いとすぐいいますでしょう。これは勝負ごとじゃないから強い弱いというのはおかしい。好きだ、といわんといかんわけですね。

松本 強い弱いはないけれど、上手下手いうのはあるんですよ。

近衛 出たあ……。 (笑)

内藤 上手下手になると私は静かにしとこ。独壇場と違
う。

松本 私はふられそうになったら泣くんです。(笑) 泣
こ思たらいつでも涙が出るんですわ。嬉しいときでもポ
ロ、と泣けるんですわ。それがこの頃ちよつとバレーて来
ましてね。(笑) よう泣くというのが通つてもてね。(笑)
泣きに來るいう有な名になつてしもてね。

内藤 今日は涙出ないけど、昨日、いっぱい泣いたん、
いわれたりね。(笑)

石阪 歌を歌っているので高ぶり方が上手なんですね。

松本 自分自身に感激していくわけですね。歌うときは
自分が一番うまいと思うもんね。

石阪 女性に向つても同じことなんですわ。

松本 絶対欲しいと思つたら、やつぱり……。

石阪 (感心したように) 見事なものや……。アツ、ア
ツ、アツ (と笑う)。歌を歌う人はものすごいナルシス
トやね。絵画きのナルシスどころやないね。

内藤 自己暗示というのが非常に大事ですね。将棋の場
合でも自信をもつて、オレの読み筋に間違いはないんだ
と考えれば二百手でも三百手でもどんな先へ行くけれ
ど、これでええんやろかと思つたら二十手位でまた後戻
りするでしょう。歌でもこれでええんやろかと思わない。
私の歌はうまいんで、睡眠不足だけどこの位でええんだ
という自己暗示ですね。

石阪 僕なんか歌を歌うと照れくささが先に來よるから
ね。

近衛 私も踊りが好きなのは自分を虐めるからですね。
虐めるつて、叱られても叱られても、こう、やつて行く
つていう……。踊つていてしまったと思うことがあります
すが、やつぱり、こうやつているときは陶醉しています
ね。それでないと、バランスくずれる、くずれる思うと
くずれますからね。

内藤 基礎を全部やつて、それで仕事をやっていると

は楽しいな、楽しいなつていう自己暗示ね。僕らでいう
と、将棋させる幸せ感をもてば病氣にならないですね。
今、歌を歌つていても歌が好きだから楽しいな、いつか
一べんフルバンドでやつてみたいと思つた、それが実
現して、ああ、幸せやな、と思うことで病氣にならない
んですね。セックスにしても自己暗示やからね。私はど
うしてこんなに好きなんだろうと……。(笑、ちよつとあ
わてて) 僕は、僕は経験がないけれども。(笑) どうし
て好きなんやろ、困つたものやなと思えばしつかりする
わけですよ。

松本 ただ、僕の経験からいえば、本当に自分が好きな
人とは最初からうまく行かないね。感情が先に走つてし
まつて身体がついて行かない。

内藤 カンジョウいうてお金の方やつたりして。(笑)

松本 僕は女性がいなかったら歌なんか歌わないしね。
やつぱり自分の好きな人には、音楽會に來て貰いたいし
ね。女性に認められたいという気持ち強いですな。

内藤 女性がおるから頑張るんですね。男は。そりや、
女性がいなけりや淋しいですよ。

松本 だから家庭用と絶えず夢を追える女性と二人いな
かつたらダメやと思う
ね。

石阪 男いうものはずつ
と幻想を追いかけてい
るやね。

内藤 だから男性五、六
人で楽しんで女性が一
人ちよつとおつてくれ
るだけでものすごい楽し
いね。

石阪 そうそう、そうい
うことですね。

(神戸竹葉亭にて)





ヘルマニク運動協賛会社

サイドボードに 新しい清酒

くつろぎのひととき
冷でよし 燗でよし……

吟醸清酒エクセレントハクツル
……………1,600円

幸せをよぶみんなのお酒

品質を誇る
清酒 白鶴

神戸・灘 白鶴酒造株式会社



清酒 からくち 金盃

辛口の先輩です。
まず、この辛口金盃は、辛口のなかの草分けです。
糖類は一切使っておりません。
中味になお一層の吟味を加え
味、コク、香りに、特徴を持たせた
男性的な灘酒です。
是非、御愛用下さい。



金盃酒造株式会社
本社 神戸市灘区大石東町6丁目3番1号
東京支店 千104 東京都中央区新川1丁目14番5号

姉妹品
二級からくち
もあります

星降る夜は、星のデカンタ



キラッキラッとファッショナブルにデビューです。
中身の良さ、ボトルの良さで人気抜群のデカンタに
星座、星、レディと魅力あふれる新製品が加まりました。
マンズワイン・おしゃれデカンタ。いつも、あなたのおそばに。



ふたりでワインを **マンズワイン**

水滴に曇る窓
手のグラス。



アサヒビール

酒源郷散策

文・林田重五郎

絵・小松 益喜



新在東京南町五丁目
定通力長・元花藏
乙通造勢
大徳五郎
一七七八年三月二日



六甲おろしの厳しさは灘で育ったものでないとわからない。

「六甲おろし吹き荒れて、チヌの浦わに波さわぎ！」

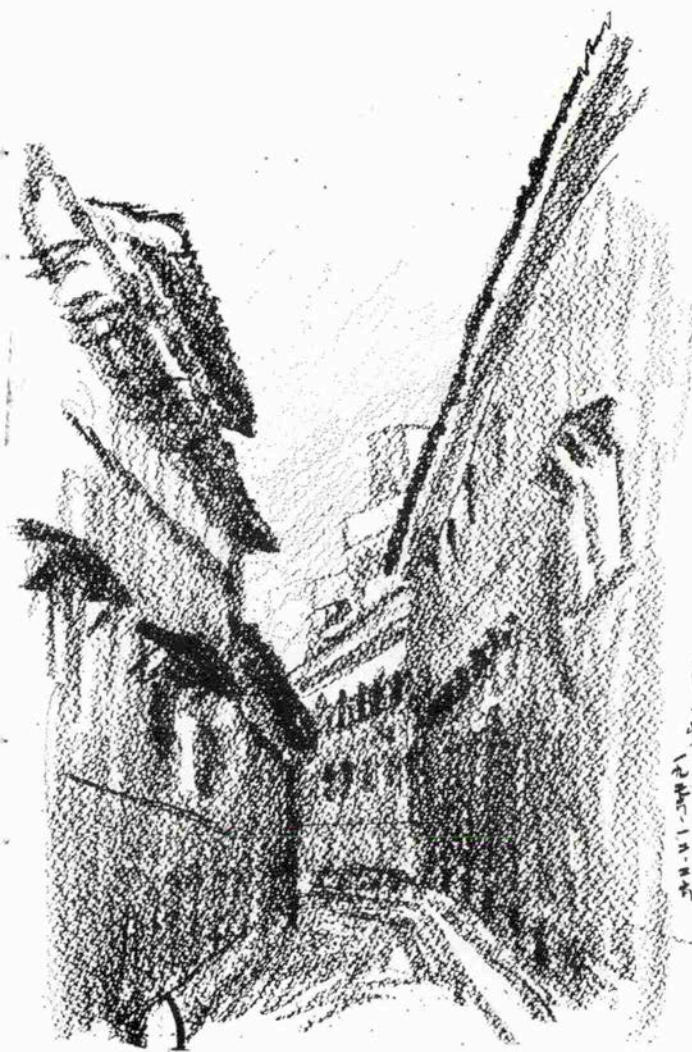
と歌だけは元気にうたったものの、冬場の軍事教練に小銃を持つ手がかじかんで、涙ぐむ目を六甲おろしが凍らせる。学校の規則でオーバーが着られなかった少年時代の記憶である。

その六甲おろしが天下の灘の生一本を産み出す大要因であることを知ったのはずっと後年である。

いま灘五郷では、側を歩いてさえ香り高い酒蔵が、日一日とビルディング様式の巨大な四季醸造蔵に替わってゆく。今にして桃源郷を訪ねずんば、近い年のうちに工場群になってしまうのではないか。ちょうど山中の異人館が姿を消してゆくように、酒蔵も見られなくなる。

そこで出かけた「酒源郷」訪問、小松益喜画伯のおともをする。その日も、きびしい六甲おろしが吹き抜けてゆく日だった。

まず西郷、いまの町名でゆくと灘区新在家である。忠勇さんの乾蔵が見える小道、小松さんが三脚に腰を下ろして写生を始められ



る。五十年の長い年期的はいったスキの全くない写生姿である。六甲おろしも、その板についた姿には敬意を表して避けて通っているように見えるほど、風の中でピクともされない。

道のかたわらに、一枚板の腰掛けが置いてある。そのまん中が線刻であって、将棋盤になっている。蔵人たちが腰掛にまたがって相対し、まわりを応援する杜氏たちが囲んでいた有様が浮んで来る。東西に長い蔵の北側には、縦に三段に窓がついている。三階建てと思われる。

東西の側面はもう一段窓がふえる、棟に近いところは四階建なの
であろう。焼板べいのこの窓が、六甲おろしを蔵の中へ導き入れる
大切な招待路である。

複雑な酒造の方法を簡単に文字で現わすのは、むずかしいが、六

東灘已即影石町丁目
福壽酒造K.K.
南露地 十羽子
一九零一、二、三



甲おろしの重要性を説明するため
に並べて見ると――

①コウジ：むし米にモヤシ屋から買って来た種コウジをまぜて作る。

②モト…冷水にコウジと冷やしたむし米を入れ、ねりつぶし、イーストを培養して作る。

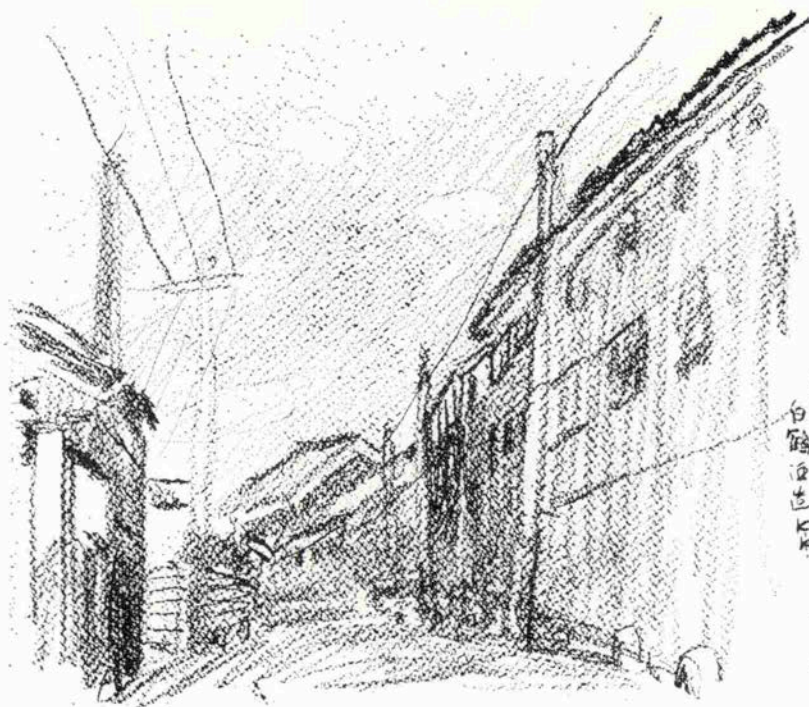
③モロミ…②のモトに①のドウ
ジと水とむし米とを三回に分けて
加える。①が米のデンプンを糖分
にし、②がこの糖分を酒に醗酵さ
せる。

完了すると③をしぼり、浄化して、低温殺菌の火入れをし熟成させる。

米が大事、水が大事、そしてなによりも気温が大事なことが、この工程を見るとよくわかる。つい近年まで「暖冬で酒造界は大困まり、蔵で氷を大量に買っている」などの新聞記事が出たものだが、酒造適温を保つためには、六甲おろしと窓とが大切なポイントである。

この風に、米は播州米、水は西宮の宮水、そして経験豊かな丹波杜氏の腕によって日本一の美酒が生まれて来たのである。

いまはコンクリート造りのビル
の密室で、冬の寒さを人造してい



印影町一丁目
百屋蔵
白星蔵
K.K.
ヤブヤブ
一三三
一三三

る。現実には秋冬春と三季酒造が多いが、理論上は夏も酒造可能の四季蔵と呼ばれる「酒造工場」時代に移りつつあるわけ。

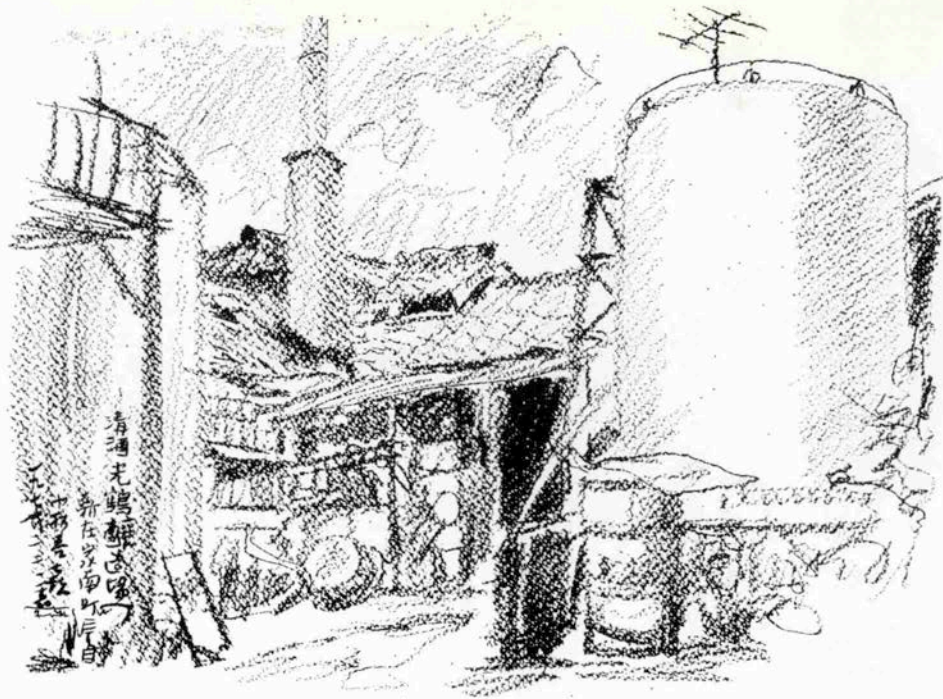
時代を感じさせる酒蔵と窓に見入っているうちに、小松さんのデッサンは一枚目が見事にでき上った。

「次はここがいい」

同じく忠勇さんの大西蔵である。その次は近くの若宮八幡宮、酒蔵群の中の森が目立つ。古い神社で巨木ぞろい、そして西郷のお宮らしく石垣も石灯籠も、昔の酒造家の名が刻まれている。

神社の前を東へ進む。道に乗用車が見える。銘酒「光鶴」の岸本酒造専務岸本晃一さんの車である。神戸青年会議所特別会員、日本J.C兵庫ブロック文化問題委員長会議顧問、小松さんとは旅行先のモスクワでのお知合いである。

岸本専務に酒蔵の中へ案内される。由緒を語る古い酒蔵の建物であるが、なかには新しい器具が多く、アルミの輝きが美しい。灘の酒の芳香がまわりいっぱい漂う。蔵の奥では、酒のしぼられているきれいな音がチヨロチヨロと聞えた。



専務さんみずから、きき酒用の茶
ワンで、したたり落ちる黄金の泉
をくんで下さる。口にふくむと、
すばらしい香味、六甲おろして冷
え切った体が、頭から足先までピ
ンと活気づく。小松さんと顔を見
合わせ、全く予想もしなかった感
激にひたる。

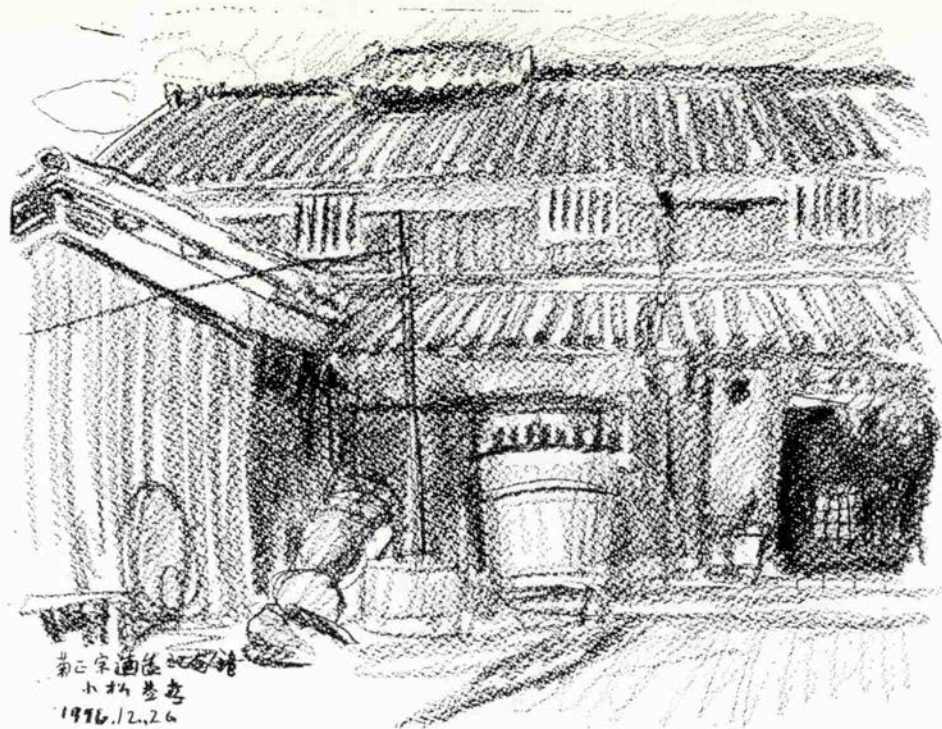
「こちらの方は甘口……」

もう一つの口から、しぼられた
ばかりのお酒を新しく汲んで下さ
る。なるほど舌ざわりはあまい。

「古い酒蔵と四季蔵で作った酒
は異るとの説と同じとの説があり
ますが……」

「当然ちがいますよ。米も年に
一度しかとれない。酒も年一度の
がうまい……」

思わぬごちそうになって、さら
に東へ、御影石町一丁目福寿酒造
の前へ出る。その南側の、両側が
古い酒蔵の露地のすばらしいこ
と。小松さん、感嘆しながら鉛筆
を走らせる。鉛筆の音が高く低く
まことに名人芸である。「戦時中
室生寺に疎開していたとき、夜中
の月下でないと写生ができず、そ
のとき覚えた鉛筆さばきだ」との
こと。蔵の感じが見る見る画用紙
に浮かび出る。「窓のワクの白ぬ
りが引き立たせるね」小松さんの



声。酒蔵の角には必ずといってよいほど石が置いてある。「これは蔵を守るための、酒造家の昔からの知恵だよ」生家が高知の酒造家である小松さんの解説。

さらに東へ、住吉川西岸の菊正宗酒造記念館へゆく。この建物は江戸時代初期の三百十七年昔にできた千石蔵である。はじめ内蔵、のち本店蔵と改名されたが、二百九十九年間実動し、二十数万石の菊正を作った蔵である。昭和三十五年現在のところへ移築された。

「いま菊正の四季醸造蔵はフル操業すると年産十萬石といわれている。つまりこの千石蔵の百蔵分ですな」なるほど、エライ時代になったものではある。館の内外には昔のタルや用具が飾られている。大きなタルの中を見るための台は「うどんや」と呼ぶ。移動させるのに江戸期の夜なきうどんや同様、棒をさしこんでかついだところから来る名だとある。暖気（だき）ダルなどタルの種類の多さにビックリする。

魚崎郷を回って、にしむら珈琲北野店へ——ここで「宮水」のコーヒなどいただいた。酒蔵回りのしめくくりにあふさわしい味だった。

酒徒なれば
だれもが選ぶ
灘の生一本
大黒正宗



灘の生一本

清酒 大黒正宗

安福又四郎商店醸

贈られてうれしい、よいお酒。

清酒

世界長

神戸・東灘

世界長酒造株式会社

山あいのせせらぎのほとり
霧にもやう酒蔵に
丹波の里の米と水 それに
加えて丹波杜氏の入魂の技
風土と伝統と手づくりから
生まれた美酒〈小鼓〉を
丹波焼の雅陶にこめて
おとどけいたします。

丹波

くりの
三年酒

丹波酒

小鼓



丹波の地酒
美酒

小鼓

氷上郡市島町中竹田1171

☎ 07958 (6) 0331 (代)

西山酒造場

丹波の味、「マロンリキュール」は若い女性のために。熱鬧がうれしい季節になりましたが、美酒小鼓は通のために。どちらも風趣ある立杭焼の徳利入もあり、お土産に最適です。神戸ではさう百貨店で発売中です。